

[令和4年12月－令和5年11月]

公益財団法人 鎮守の森のプロジェクト 2023年次報告書 / 令和5年12月発行



¥1000 = ポット苗
1本分



公益財団法人 鎮守の森のプロジェクト
東京都港区虎ノ門3-7-2 2階/MAIL:info@morinoproject.com
TEL:03-6432-0085(平日10時～17時)



www.morinoproject.com



防災の森づくり

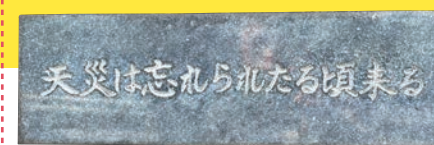
天災は
忘れた頃に
やってくる！

地球物理学者
寺田寅彦博士

- ・1878年(明治11年)～1935年(昭和10年)
- ・東京生まれ高知育ち(3～18歳)
- ・父は高知県の士族出身
- ・東京帝国大学理科大学卒業
- ・東京帝国大学教授(物理学)
- ・地震研究所にも籍をおいた
- ・随筆家としても活躍



寺田寅彦記念館(寺田寅彦邸跡と居室)
住所：高知県小津町4-5
同県出身の植物学者 牧野富太郎博士の文字が
刻まれた石板↓が入口でお出迎えしてくれる。



植物学者 牧野富太郎博士書

関東大震災100年

「天災は忘れた頃にやってくる。」これは、自らも関東大震災を東京で経験した地球物理学者 寺田寅彦博士が残した有名な警句です。

100年前の1923年(大正12年)、マグニチュード7.9と推定される巨大地震が日本の関東地方を襲い、死者・行方不明者10万5千人という未曾有の被害をもたらしました。関東がこれほどの大地震に襲われたのは、1855年(安政2年)7千人以上が亡くなったとされる安政の大地震以来70年近くが経っており、まさに「忘れた頃」にやってきたということです。

100年前の声を聞こう！

近代文明の進展が国の安全を脅かす！？
自然との共生を意識した防災を考える。

寺田博士は著名な随筆家でもあり、多くの随筆を残しています。関東大震災から11年後に発表した『天災と国防』では、科学的視点から天災を考察するとともに、社会や文化の影響も考慮し、近代文明の進展が国の安全を脅かす可能性を指摘しています。自然との共生を意識した、天災への対処方法を再考するきっかけを提供する随筆でした。その一部を要約してご紹介します。

日本は、気象学的、地球物理学的にも非常に特殊な場所にあり世界的にみても災害大国といえます。昔々、人類がまだ原始的な時代は、頑丈な岩山の洞窟に住んでいて、地震や暴風に対して比較的安全でした。文化が進み、小屋を建てるようになって、テント

MORINO PROJECT

昨年、財団は設立10周年を迎えることが出来ました。日頃より、様々なかたちでご支援、ご協力を賜り、心より御礼申し上げます。本年6月までの集計で約60万本のポット苗を、約6万人のボランティアの方々の手によって植樹することが出来ました。11年目の活動に入った今年は、新たなスタートの年と考えています。

一方、東日本大震災から12年余りが経過し、復興に対する支援も先細る傾向が見えるなか、皆様のご寄付を活動の原資とさせていただいている財団を取り巻く環境は、厳しくなっていており、植樹地の確保が進まない状況もあります。

これらの課題を解決するために、財団はいくつかの新たな試みを開始します。一つは企業・団体に対する新たな取り組みです。SDGsやカーボンニュートラルの達成などに貢献する植樹活動の提案です。植樹による二酸化炭素吸収量の「見える化」などを通して、企業・団体の皆様と共に活動することを目指します。またクラウドファンディングにも挑戦し「災害からいのちを守る森」づくりに活用できる提案をいたします。

財団はこれからも様々な取り組みを進めながら「災害からいのちを守る森」づくりを進めてまいりますので、引き続き皆様のご支援ご協力を切にお願いいたします。

公益財団法人 鎮守の森のプロジェクト

理事長

細川 護照

自然環境の機能を活用したグリーンインフラを通じ、
自然資本の保全にも寄与します。「SDGs」に合致した取り組みです。





関東大震災100年

自然との共生を意識した 防災の森づくり

当財団で進める「災害からいのちを守る森づくり」は、自然との共生を意識した防災への取り組みです。自然環境の機能を活用し、森の盾により津波被害を減災します。

今年は、関東大震災発生からちょうど100年の節目を迎えました。その発生日である9月1日は後に「防災の日」として定められ、災害に備えるための活動や訓練が行われています。国や自治体、たくさんの団体が防災の大切さを伝える活動をしています。

当財団でも、防災の意識を高めるため、南相馬市で植樹活動を行いました。当日は、多くの植樹ボランティアの皆さまにお集まりいただき、地元の方々をはじめ、遠くは香川県、北海道、秋田県、大阪府、愛知県、首都圏などから参加いただきました。



関東大震災直後の本所安田邸の様子(現在の墨田区横網)
写真提供:国立科学博物館所蔵



Q 問題です

関東大震災では、市民が逃げ込んだ避難場所の周囲を囲む素材の違いが生死を分けたという調査報告がありました。その素材の違いとはなんなのでしょうか？ 答えは次ページ下部。

☆都会や木造住宅密集地で生活する方は必見です！

植樹祭

2023年6月11日／福島県南相馬市・第11回南相馬市鎮魂復興市民植樹祭

2023年6月24日／宮城県岩沼市／火事跡補植 ※公式YouTubeチャンネルで詳しく報告しています↓

2023年7月15・16日／福島県南相馬市／第2回宮脇昭記念植樹祭

2023年9月30・10月1日／福島県南相馬市／関東大震災100年植樹・防災の森づくり

2023年の植樹本数**30,150本**
参加人数**1,601人**

設立から合計600,664本の木を63,880人のボランティアと植えました。



<https://youtu.be/6XAoBI7epgl>

育樹祭(草抜き)

2023年6月24日／宮城県岩沼市藤曽根

2023年7月17日／岩手県山田町

種子採種ツアー

2023年10月28日／宮城県仙台市近郊

仙台近郊(大崎八幡宮→青葉神社

→志波彦神社鹽竈神社→千年希望の丘相野釜公園

当財団の森づくりは植樹地の自然林を手本に樹種構成を決めています。その土地に適した苗木を用意するために、植樹地の近くで自生している種子(主にどんぐり)を採種し、苗木に育て、植樹しています。

どんぐりは「母樹」とする古い木から採取します。なぜ「母樹」の多くは神社仏閣にあるのでしょうか？ それは、鎮守の森は神が宿る森として古来の森のまに残されることが多いからです。



植樹から10年経過した
千年希望の丘では、
アカガシやスダジイから
どんぐりが採れました！



10年経過

鎮守の森の教室(ポット苗講習会)

2022年11月26日／千葉県君津市圃場

当財団の森づくりは、「地元の郷土樹種を植える」、「たった20年ほどで原生林を手本とした森を再生する」、「100年、1000年つづく持続可能な森である」という特徴があります。

これは、植物生態学者 宮脇昭博士(2021年7月逝去)考案による生物学的な植樹方法です。約半世紀をかけて試行錯誤を重ね構築されたこの技術は、近年、海外からの注目が高まっており、世界中で「#miyawakiforest」がつくられています。SNSのハッシュタグで検索するとたくさんの国々の様子をご覧いただけます。ぜひ試してみてください。

「鎮守の森の教室」は、毎年11月下旬～12月上旬頃に開催しています。宮脇博士門下生による講義や屋外での観察会、種からポット苗をつくるプロの技などを通して森づくりへの理解を深めていただいています。

Q 答え

関東大震災では、板塀で囲まれた広場より、常緑樹に囲まれた広場の方が多くの命が助かりました。



こんな応援をしていただきました

鎮守の森のプロジェクトでは、それぞれ法人さまの業務特性を活かして応援していただいています。今年、SDGsの達成に貢献するために協働する企業・教育機関・福祉法人で結成されたチームや、太陽光エネルギーの電力を植樹祭で供給してくれた企業などのご支援をご紹介します。

※順不同・敬称略



『TEAM KIOUETAI』は、企業・教育機関・福祉法人が協働してSDGs活動を行っています。

当財団オリジナル絵本はQRコードから全ページ閲覧可能です。→



TEAM KIOUETAI

天王寺動物園(大阪府)と、TEAM KIOUETAI(事務局山形開発工業株式会社)が共創し、絵本の読み聞かせイベント「いのちを育む森と私たち」が開催されました。読み聞かせには、当財団の絵本も登場し、樹木を含む「みどり」は生物多様性を育むだけでなく、防災林として様々な災害から生き物を守っていることを子どもたちへ伝えました。総入場者数は200名を超える大反響で、「森をつくることで、津波の被害を軽減することができることを子どもが知る機会があって良かったです。」という参加者の声もいただきました。災害からいのちを守る植樹活動に寄り添った活動をしてくださりありがとうございます。



創立45周年
おめでとうございます。
お揃いのTシャツが
素敵でした！

カンパネ株式会社

マンションやビル全体の給排水設備改修を中心に工事を行い、私たちの暮らしをサポートする同社は、環境に配慮した取り組みを積極的に行っております。その一環として、工事における断水時間の予定を守り、無事に完了した現場2件につき1本の苗木に相当する寄付を行っています。現場のモチベーションを高め、同時に環境保全に貢献するというユニークなアプローチを見出してくださいました。実際に木も植えに来ていただきありがとうございます。



植樹祭への出展ブース。
会場のあちこちへ電力供給して
いただきました。

株式会社Jackery Japan

ポータブル電源・ソーラーパネルを製造・販売する同社では、ソーラーパネルを活用して太陽光エネルギーをポータブル電源に蓄電することで、グリーンエネルギーを使った個人ができるエコなライフサイクルの実現を目指す他、環境活動として「Jackery Green」プロジェクトを進めています。1000本の苗木をご寄付いただいた他、「第11回南相馬市鎮魂復興市民植樹祭」では、同社ポータブル電源を利用して、会場入り口のエアアーチや会場の音響設備への電力供給、PRブースでは参加者に冷やしたゼリーを配布いただきました。

多大なご支援をいただいている企業・団体・個人の方々

(2022年7月1日～2023年6月30日)

 AIG 損保 AIG損害保険株式会社	 AEON Environmental Foundation 公益財団法人イオン環境財団	 Aflac アフラック生命保険株式会社
 MIRARTHホールディングス Takara Leben 株式会社タカラレーベン	 Parker パーカー・ハネフィン財団	 CTC Challenging Tomorrow's Changes 伊藤忠テクノソリューションズ株式会社
 島村楽器 島村楽器株式会社	 MS&AD 三井住友海上あいおい生命 三井住友海上あいおい生命保険株式会社	 東京短資株式会社

※順不同・敬称略

こだまクリニック 児玉末 / 有限会社フィセル / アプライド マテリアルズ ジャパン株式会社 / 三菱UFJ信託銀行 / 東京ロータリークラブ
/ 株式会社LOSA / 高山美紀 / 高山知子 / 株式会社エフビー / 株式会社ベガコーポレーション / 株式会社ティレックス /
渡辺正見 / GPSSホールディングス株式会社 株式会社地熱開発 / 株式会社マイクロ・テクニカ / 加藤悦子 / 株式会社TSIホールディングス
/ ナカモリリツコ / 宗教法人日蓮宗修昌山 法性寺 / 株式会社エムアイカード / クリスタ長堀会 / グリーンモンスター株式会社 /
能美防災株式会社 / キングレコード株式会社 / 荒井公認会計士事務所 / 株式会社トライメート / ボックスチャーター株式会社 /
仁科 潔 / 小林三雄 / 和田多規江 / 高橋迪子 / 中里晶子 / 野村幸弘 / 小沼芳子

※順不同・敬称略

決算概要

(2022年7月1日～2023年6月30日)

[収入の部]			[支出の部]		
(単位:千円)			(単位:千円)		
科 目	金 額	備 考	科 目	金 額	備 考
寄付金収入	50,108	1,779件	事業費	75,118	
助成金収入	10,710	日本宝くじ協会、イオン環境財団	1.森の防潮堤創造事業費	73,480	植樹祭、育樹祭他
雑収入	141	利息等	2.ポット苗育苗事業費	1,515	どんぐり採種・育苗講習会他
前年度繰越金	303,443	令和3年度より	3.情報提供事業費	123	広報・宣伝費
収入合計(A)	364,402		管理費	2,183	事務経費他
			支出合計(B)	77,301	
			次年度繰越金(A-B)	287,101	